日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

90.6.8 No.3231

焦点 『日の丸・君が代』 全国で「日の丸」阻止

教育労働者と地域とが共闘

「日の丸・君が代強制は……平和と民主主義に敵対することに踏み切ったことを世界に宣言。思想の強制はじわじわと人の精神を破壊する。戦争は一瞬に人の肉体を破壊する」（毎日新聞投書より）

昨年の三月、政府・文部省は、新学習指導要領を告示し、「日の丸・君が代」義務化を打ち出し、その九二年実施予定を前倒しして今年の入学式では、処分をふりかざしながら、「日の丸・君が代」を強行しようとしてきた。

しかし、この攻撃に対し学校現場の教師や父母、そして生徒を含め全国・各地で阻止や拒否のたたかいが大衆的にかちとられ、大きく燃え広がった。

新聞やテレビ等のマスコミ報道を見るだけでも〝反対闘争〟が全国的に展開されていることがわかる。

（その一部を紹介すると）

（東京）の三多摩地域では、教育労働者と父母が一体となって、新学習要領について学習会や宣伝、署名活動を積み重ねる中から国立、昭島、保谷、清瀬、東大和の各市議会に「日の丸・君が代」を強制しないように求める意見書が可決され、国立市の小・中、十一校の入学式では校長の強行実施策動をはねのけ、まったく実施させなかった。

都立向丘高校でも教師三〇人が「日の丸」を強引にあげようとした校長を追及し、掲揚を阻止。

（埼玉）県立川越高校では、八百人で生徒総会を開き、「強制に反対し、実施に抗議する」決議文を採択し、学校当局につきつける。同じく、福岡高校では、教師の総意で〝拒否〟、「日の丸」をあげた卒業式予行演習を中止させる。これに対し、県教育委員会は、二十六名の教師への不当処分攻撃に出ているが、父母の間からも〝処分抗議〟の署名運動が巻きおこり、新たな闘いに入っている。

母、生徒のほとんどが着席したままで、無言の抗議をおこなった。（その他、無数に）

文部省の強制を粉砕

〔日の丸・君が代〕反対を報じた各新聞〕

沖縄では三ない運動

沖縄県では〝君が代〟の強制に対し、組合が組織としても、「立たない、歌わない、演奏しない」の「三ない運動」をたたかっている。

「君が代」のテープが流される学校では、教師や父

対「教育労働者との連帯を

反「日の丸・君が代」闘争は、清算事業団闘争とともに、「連合」を突き破り、破綻に追い込む決定的闘いとなった。

日教組指導部は、「連合」加入の条件として出されていた臨教審反対と「日の丸・君が代」反対の旗を下すことを事実上認め、屈服する中で、現場の教育労働者は、その逆流と反動をのりこえ、地域住民との共闘を実現しながら、決然と決起を始めているのである。

この熱い闘いは、全労連（日共系）による「入学式を混乱させるな」という敵対や、JR総連・革マルによる〝日の丸労働運動〟推進を徹底的に断罪し打ち破るするどい質と力を有している。

加えて、今秋「大じょう祭」「即位の礼」通しての天皇制的強権支配への道を阻む重要な要（カナメ）的闘いの位置をかくとくしている。

今春四月、切りひらかれた反「日の丸」阻止闘争の意義が大きいがゆえ、不当処分を乱発し、必死で闘いの沈静化を図ろうとしている。

われわれは、事業団闘争を闘いながら、同時に闘う教育労働者との連帯を強め九〇年代の勝利にむかってつき進むものでなければならない。

「日の丸」について

一八五五年薩摩藩主・島津斉彬が日本で最初の蒸気船「雲行丸」の試運転で旗印に使用したのが初め。その前身の幕府への建議により、幕府が老中・阿部正弘の名で「総船印は白地に日の丸」と布告。明治政府は、一八七〇年に太政官布告の「商船の規則」で、日の丸を日本船に掲げる旗と定めたが、国家一般についての定めは、今に至るもないのである。

これに対し、政府は国会で「日の丸を国家、君が代を国歌とするのは国民的確信」と言いなし、「法律的定めはないが、この間の侵略戦争の中で使われてきたのだから国旗である」といわんばかりに主張しているのである。こうした視点から見ても断じて認められないのである。

労働学校
6/16(日)
労働者総合センター
働く者の世界を変革する力を！
講師
鎌倉孝夫氏
（埼玉大教授）
全力参加を